

第 3311 図

あかね科



はながさのき

Morinda umbellata L.

九州屋久島以南、アジア熱帯に広く分布する半蔓性の常緑灌木である。全体平滑で、葉は対生し柄があり、托葉は筒状に癒合して枝を包み先に短い裂片がある。葉身は倒卵状長楕円形で先は急に尖り基は楔状に細まり、長さ6-10cm中2-4cm。初夏、枝先に繖状に長さ1-2.5cmの細毛のある花茎を出し、その先に数個の白花がかたまつて着く。花冠は長さ約4mm、内側に長い鬚毛が多く、深く5裂し、裂片は長楕円形で先端の外側に凸隆起がある。5雄蕊、1雌蕊。果実は頭状に集つて互に癒着し径1cm許、赤く熟す。和名は花傘の木の意味である。

第 3312 図

あかね科



あかみみずき

Wendlandia formosana Cowan

奄美大島以南の亜熱帯に産する常緑小喬木である。若枝には伏した細毛があり、葉は柄があり対生し、葉柄間に広3角形の永存性の托葉がある。葉は長楕円形で両端が細まり全辺、長さ8-15cm中3-6cm、両面ほぼ平滑である。初夏、枝先に長さ10-20cmの円錐花序をつけ、伏した細毛があり、多くの白又は黄白色の小花をつける。萼は先端5裂しほとんど無毛である。花冠は長さ約4mm、筒部は細長く内側に毛があり、裂片は5個、長楕円形でそりかえる。雄蕊は5個、花筒上部につき、葯は線形で外へ突き出している。花柱もつき出し、柱頭は2裂する。蒴果は小球形、2室で径約2mmある。

第 3313 図

あかね科



ぎょくしんか

Tarena Gyokushinkwa Ohwi

九州以南の暖地に産する常緑の小灌木で、乾くと黒っぽくなる。若枝には伏した毛があり、葉は柄があり対生し、葉柄間に3角形の托葉がある。葉身は長卵形で先は尖り、長さ6-18cm幅3-8cm、やや無毛で上面は少し光沢がある。夏、枝先に繖房花序をなして白花を開く。萼は小さく鐘形で先に5歯がある。花冠は長さ6mm許の細長い筒部があり、裂片は5又は4個、線状長楕円形で筒部より少し長く、蕾の時は振れている。雄蕊は5又は4本、花筒の上部につき、葯は線形で長くつき出し花冠裂片とほとんど同じ長さがある。果実は球形で径5-8mm、黒く熟す。

おおはしかぐさ

Oldenlandia hirsuta L. fil.var. *glabra* Honda(=*Hedyotis Lindleyana* Hookervar. *glabra* Hara)

本州北中部に産する多年生草本で、茎の下部は地に伏して根を下す。全体はほぼ無毛で乾かすと黒っぽくなり、茎は長さ15-60cm。葉は対生し柄があり披針状卵形で両端尖り、長さ2-7cm中8-30mm。夏秋、葉腋に短い柄をだし1-3個の長さ5mm許の小花をつける。萼は漏斗状で披針形の4裂片があり全く無毛である。花冠は白色、筒部は短かく、深く4裂している。萼は花がすむと大きくなり、蒴果は球状となる。ハンカグサに比べて全体が往々大きくなり、萼筒は初めから毛がない点で異っている。

こぼんむぐら

Hedyotis chrysotricha Merrill(=*Oldenlandia kiusiana* Makino)

支那に分布し、九州西部に産する多年生草本。茎は初め立つが後のびて地に臥し長さ60cmに達し、円く節から根を下す。茎や葉柄には立った白毛が多いが、乾くと黄色をおびる。葉は対生し、柄はごく短く、楕円形で先は時に短く尖り全辺、長さ1-3cm幅5-15mm、特に下面に毛がある。両葉柄間に膜質の托葉があり、縁は裂け中央裂片は刺状にとがる。春から秋まで葉腋に1-3個の小花をつける。花柄は長さ1-5mm、萼は深く4裂し、裂片は披針形で毛がある。花冠は淡青色、漏斗状で長さ5-6mm、筒部の内面には毛が多く、裂片は4個、長楕円状披針形である。雄蕊は4本、花筒の上部につき、花糸はごく短い。花柱は先が2裂する。和名は葉形が小判形のムグラの意味である。

やばねかずら

Thunbergia alata Bojer

熱帯アフリカ原産の多年生蔓植物。本邦へは明治初年頃輸入され、温室で観賞される。茎は細く長く、やや四角柱状を呈し、短い毛が密生する。葉は長い節間をへだてて対生し、葉柄に狭翼があり、葉身は三角状卵形で、毛が散生し、基部は戟形を呈する。花は腋生し、長梗上に単生、径3-4cm許、やや不正の輻状花冠を有し、5個の裂片は円く、橙黄色で花筒口部は紫黒色、4雄蕊、1雌蕊があるが、花筒外に出ない。和名は葉形に基き矢羽葛の意。

第 3314 図

あかね科



第 3315 図

あかね科



第 3316 図

ぎつねのまご科

